河原町埋蔵文化財調査報告書　第7集

鳥取県河原町

丸山城跡発掘調査報告書

1993. 3

河原町教育委員会

鳥取県河原町　丸山城跡発掘調査報告書　河原町教育委員会

序　　文

この報告書は、「河原中央公園整備事業」と「お城山展望台建設事業」に伴う埋蔵文化財の発掘調査の記録であります。

当遺跡が所在する通称「お城山」は、以前に行った分布調査や文献等により中世の山城である「丸山城」の存在が確認されていました。

このような観点から調査を実施したところ、予想通り遺構が検出され周辺の歴史が少しは明されたのではないかと思われます。

今後は、町の文化発展のための貴重な一資料として保管していく所存でありますとともに、この調査にあたり関係者の方々に絶大なるご協力とご指導、ご助言を賜りましたことに対し深甚なる感謝を申し上げる次第であります。

1993年3月

河原町教育委員会
教育長　蓮　佛　　傳

例　　言

1．本報告書は、河原町教育委員会が河原中央公園整備事業とお城山展望台建設事業に伴い、平成４年４月30日から７月24日までの間に実施した鳥取県八頭郡河原町大字渡一木・谷一木に所在する埋蔵文化財発掘調査の記録である。

2．調査関係者は次のとおりである。

調査団長	蓮　佛　　傳（河原町教育委員会教育長）
調査指導	山　枡　雅　美（鳥取県埋蔵文化財センター）
調 査 員	中　島　弘　隆（河原町教育委員会主事）
事 務 局	小　谷　和　章（河原町教育委員会教育課長）
	小　泉　悦　則（河原町教育委員会教育課長補佐）
調査協力	鳥取県埋蔵文化財センター

3．挿図中の方位は磁北を示す。

4．挿図中の記号はＳＢ：掘立柱建物、ＳＫ：土壙、ＳＡ：柵列を表す。

5．発掘調査及び報告書作成にあたっては、鳥取県埋蔵文化財センターの指導と協力を得た。

6．本書は、中島が執筆し河原町教育委員会が編集、作成した。

7．発掘調査で得られた図面・写真等は、河原町教育委員会に保管する。

本　文　目　次

Ⅰ　位置と環境 …… 1
Ⅱ　調査に至る経過 …… 2
Ⅲ　調査の概要 …… 2
Ⅳ　調査の結果 …… 4
　1　堀立柱建物 …… 4
　2　土　　壙 …… 4
　3　　郭 …… 4～15
　4　棚　　列 …… 15
　5　堀　　切 …… 15
　6　土　　塁 …… 16
Ⅴ　まとめ …… 16

挿　図　目　次

挿図1　丸山城跡周辺遺跡位置図…… 1
挿図2　丸山城跡周辺地形図…… 3
挿図3　丸山城跡遺構図…… 5～12
挿図4　ＳＢ１遺構図 …… 13
挿図5　ＳＫ１遺構図 …… 13
挿図6　ＳＡ１遺構図 …… 14
挿図7　水堀（濠）１・土塁１断面図…… 14

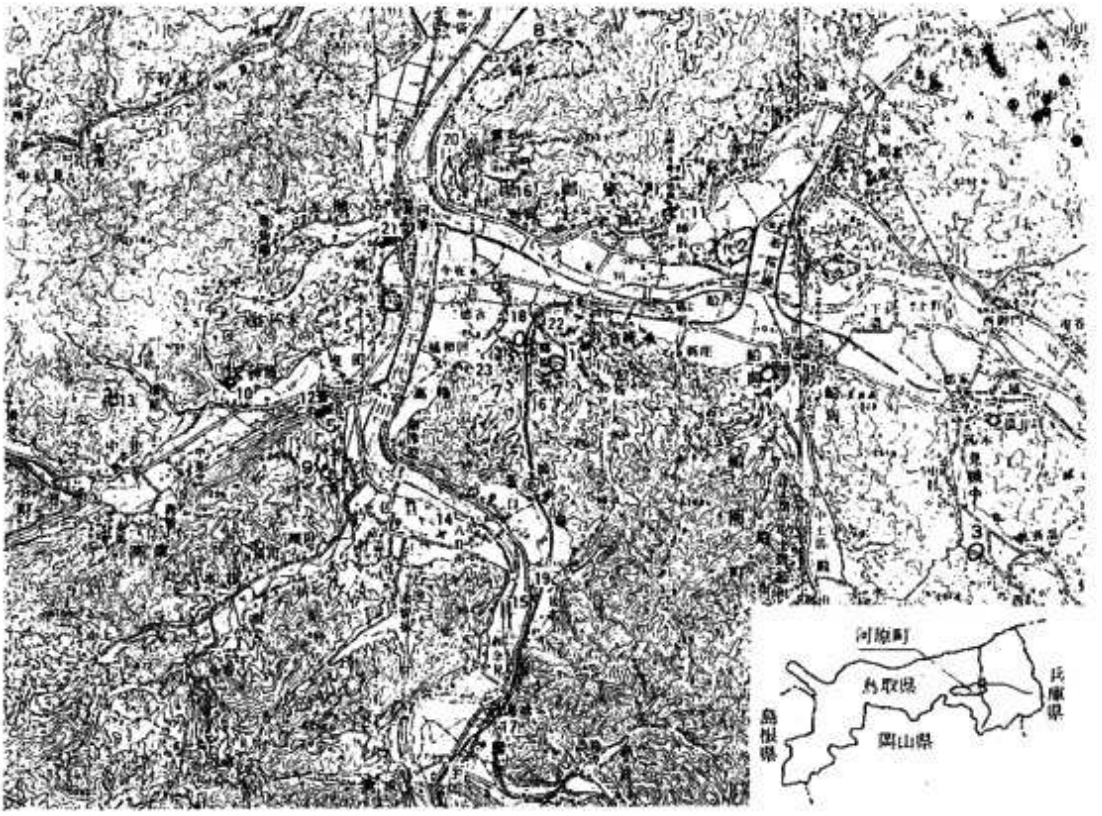
図　版　目　次

図版Ⅰ　丸山城全景
丸山城全景航空写真
図版Ⅱ　丸山城周辺風景
丸山城周辺風景
図版Ⅲ　発掘調査作業風景
第３郭
第１・２郭
第１・２郭
図版Ⅳ　第１郭（ピット）
防空壕跡
ＳＫ１全景
堀切（空堀１）全景
図版Ⅴ　ＳＢ１・ＳＡ１全景
水堀（濠）・土塁１全景

Ⅰ 位置と環境

丸山城跡は、鳥取県八頭郡河原町大字渡一木・谷一木に所在し、千代川支流の合流地点の左岸で、眼下に河原集落の街並みと遠くに鳥取市街地をのぞむ標高103ｍの丸山（通称「お城山」）に位置している。

当遺跡が所在する「お城山」周辺には、南側に前方後円をもつ渡一木六号墳（天坪山古墳）を代表とする渡一木古墳群、東側に平安時代末期頃から戦国時代にかけて鳥取より関東に通じる上方往来の馬籠のお立ち場跡として古くから栄えた智頭街道の宿場町で、陸上、水上交通の要地であった河原集落、西側に八上郡十九座のひとつである「久多美神社」を祀る谷一木集落など歴史的、文化遺産の宝庫である。



挿図１　丸山城跡周辺遺跡位置図

凡　例

- × 遺物出土地
- ◯ 散布地・集落跡
- ▲ 銅鐸出土地
- ◯ 古墳群
- 前方後円墳
- ● 円　墳
- ⊗ 窯　跡

1. 郷原遺跡
2. 万代寺遺跡
3. 牧野遺跡
4. 丸山遺跡
5. 獄古墳
6. 郷原古墳群
7. 山手古墳群
8. 稲常古墳群
9. 大平古墳
10. 天神原古窯跡群
11. 土師百井廃寺跡
12. 式内社売沼神社
13. 羽黒山妙玄寺跡
14. 瓦経出土地
15. 銅鏡出土地
16. 最勝寺
17. 大安興寺
18. 前田遺跡
19. 下中溝遺跡
20. 片山遺跡
21. 丸山城跡
22. 山手森谷上分遺跡
23. 山手所在遺跡

また、当遺跡である丸山城は、古城三のひとつで羽柴（豊臣）秀吉が鳥取城来攻のおりその凱陣の本陣を置いた跡と伝えられ、山頂を中心に平地が稜線に左右三段ずつ並び、さらに下方に四ヶ所の平地が存在し、文献や伝承を総合すると天正八年（1580年）ごろ築造されたのではないかと推測されている。

このようなことから、丸山城跡は数々の歴史、文化を知る上での資料が周辺で多く確認されていることなど、町の中枢として位置している。

Ⅱ　調査に至る経過

昭和63年に「河原中央公園整備事業」が丸山（以下お城山）一帯に計画され、計画は進行していたが、同年に国から「ふるさと創生事業」が発表された。これを受けて町では公募による提案募集を行い、１億円の事業の使途を協議した結果、お城山の山頂に城を象った展望台を建設することが決定した。今回の調査は、これに伴う発掘調査である。

すでに、事業区域内である「お城山」は文献等で中世の山城跡であることが周知されていたところであり、発掘調査の必要があった。そして、平成３年度に試掘調査を行う運びとなった。

試掘調査では、遺構の有無及び広がりを把握するため、鳥取県埋蔵文化財センターに現地調査を依頼し、19本のテストピット（トレンチ）を事業区域内全域に設定した。

調査の結果、１本を除くすべてのトレンチで平坦面（削平地を含む）、郭、ピット及び堀切、土塁等を確認した。そして、平成４年度本調査（発掘調査）を実施することに至った。

今回の調査は、展望台建設事業によってほとんどの遺構に影響を及ぼすため、工事全域にあたる約3,600㎡の調査範囲を決定し、平成４年４月30日から７月24日までの期間に行ったものである。

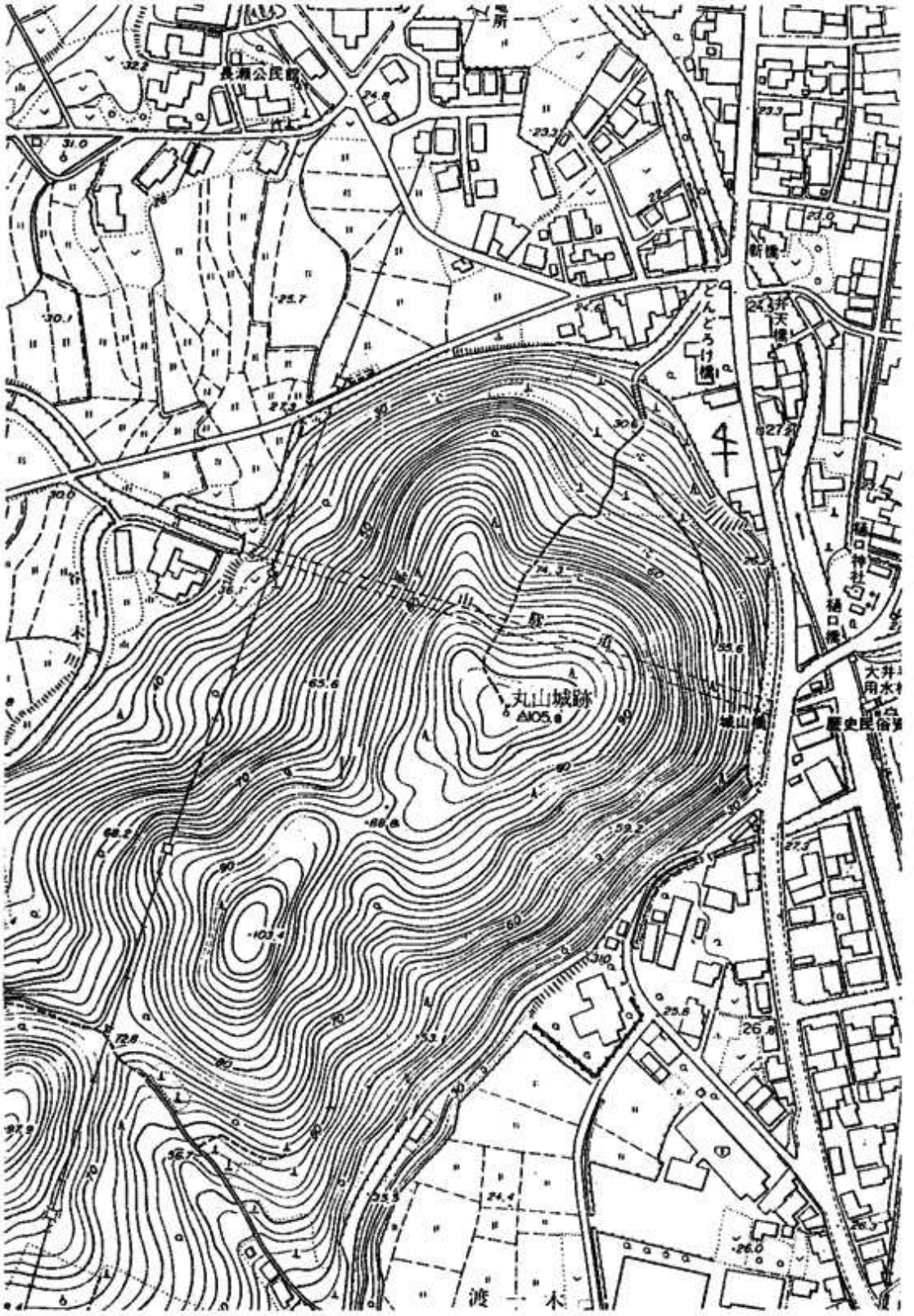
また、調査区に隣接した古墳群との関連性など意味深い発掘調査である。

Ⅲ　調 査 の 概 要

１．概　　略

調査は、平成４年４月30日から最頂部の平坦面の表土の除去から実施した。先に実施した試掘調査のトレンチから得た埋土、盛土、削平等の状況を的確に捉えながら頂部か下方にかけて調査を進行させた。

途中から大量の表土が生じ、時間を要したが、調査の結果堀立柱建物、土壙、柵列、堀切、郭（平坦面）及び水堀、土塁を検出した。



挿図２　丸山城跡周辺地形図

Ⅳ 調査の結果

今回の調査では、堀立柱建物１棟、土壙３基、郭８段、堀切（竪堀）１条、水堀（濠）１条、土塁１条、柵列１基を検出した。遺物は出土しなかった。

１．堀立柱建物（ＳＢ）

全体で１棟だけ堀立柱建物を検出した。規模は１間×１間で簡素な建物である。

ＳＢ１［挿図４、図版Ⅴ］

桁行１間（6.40～6.50ｍ）×梁行１間（5.22×5.50ｍ）で桁行方向をＮ－42°－Ｅにとる建物。第６郭の南西部でＳＡ１の東側に所在する。

柱穴は円形を呈し、径0.38～0.59ｍ、深さ0.28～0.42ｍを測り、多少斜面に位置しているためか柱間・柱筋にバラツキが認められる。簡易的な建物である。

２．土壙（ＳＫ）

調査区の全域で３基検出した。形・大きさとも変化に富み、平面形には楕円形、隅丸方形、方形などがある。しかし、出土遺物がないため時代が判定できるものはない。

ＳＫ１「挿図５、図版Ⅳ」

頂部第１郭の南側の平坦面に位置している。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸2.20ｍ、短軸1.00ｍを測るが、深さは削平されている関係で0.15ｍと非常に浅い土壙である。主軸をＮ－58°－Ｅにとる。

３．郭

全体で８段の平坦面と１段の帯部を検出し、ピットも多数かくにんした。

第１郭［図版Ⅲ・Ⅳ］

最頂部の平坦面で主郭を呈する。遺構は、平坦面から土壙３基と多数のピットを検出した。

第２郭［図版Ⅲ］

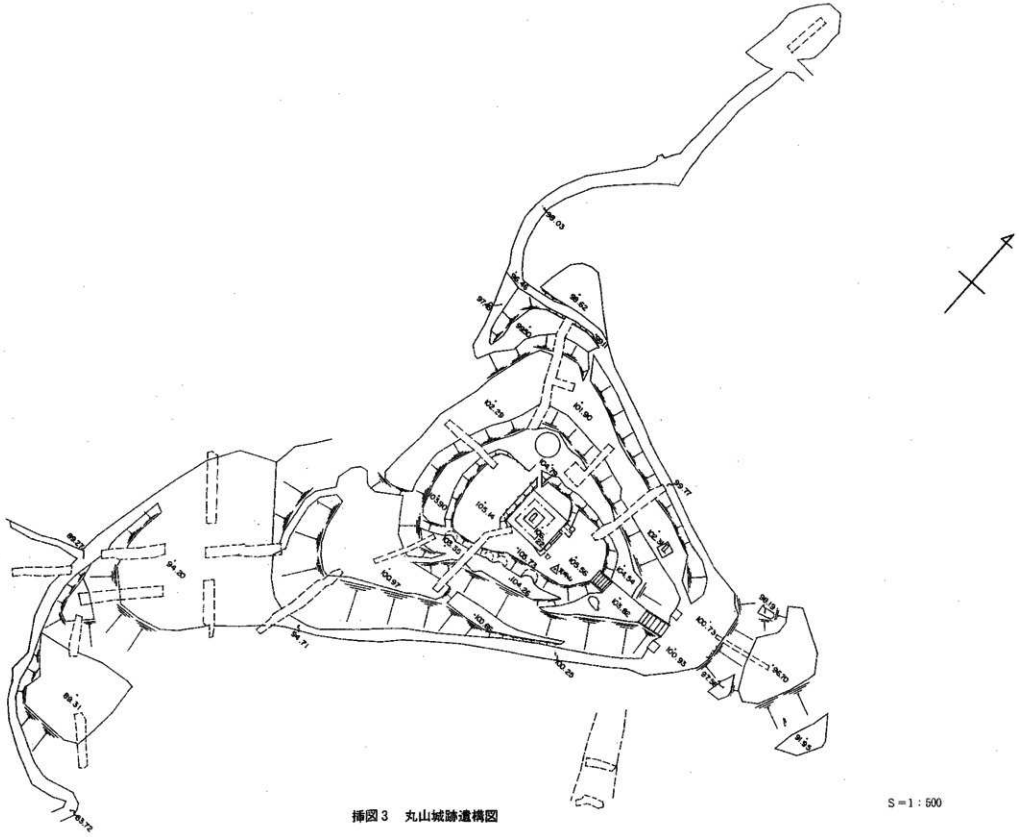
第１郭から1.0ｍ程降った平坦面で、主郭を取り囲むような形で位置している。遺構は、ピットと第２次大戦中に米軍機の監視所が置かれていた際に利用したと思われる防空壕跡が４箇所検出された。

第３郭［図版Ⅲ］

第２郭から4.0ｍ程降った東側の平坦面に位置している。ピット等は検出されなかった。

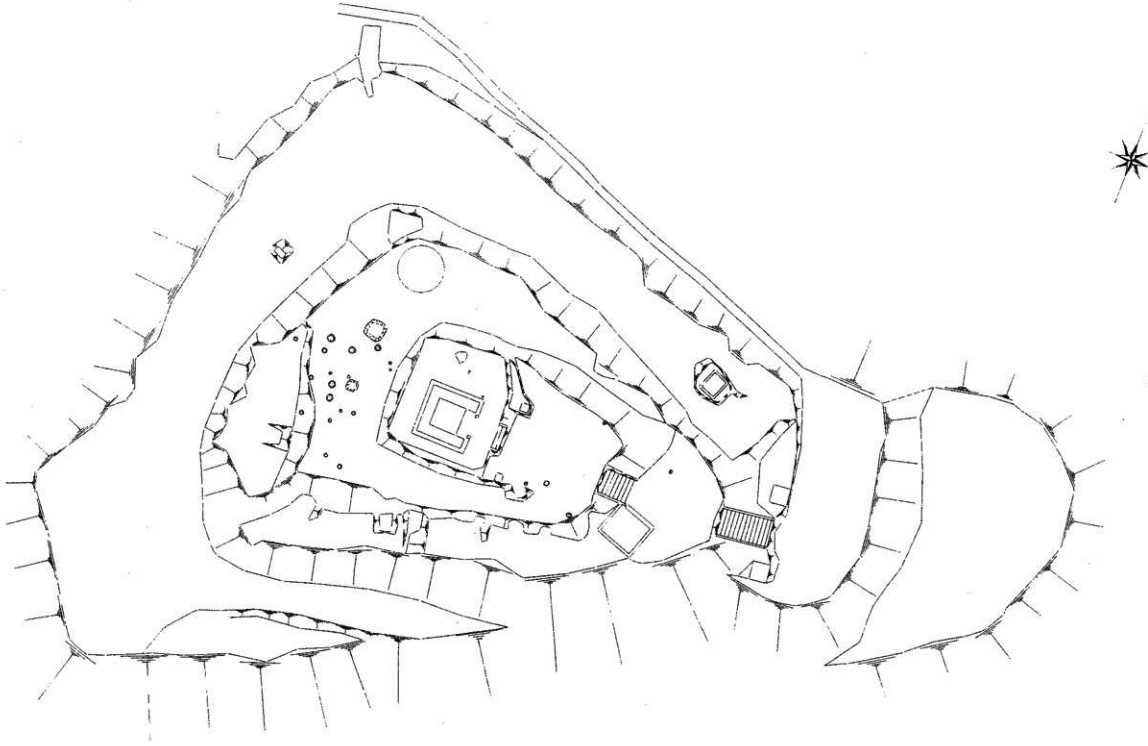
第４郭

第３郭から5.0ｍ程降った南東側の平坦面に位置している。ピット等は検出されなかった。

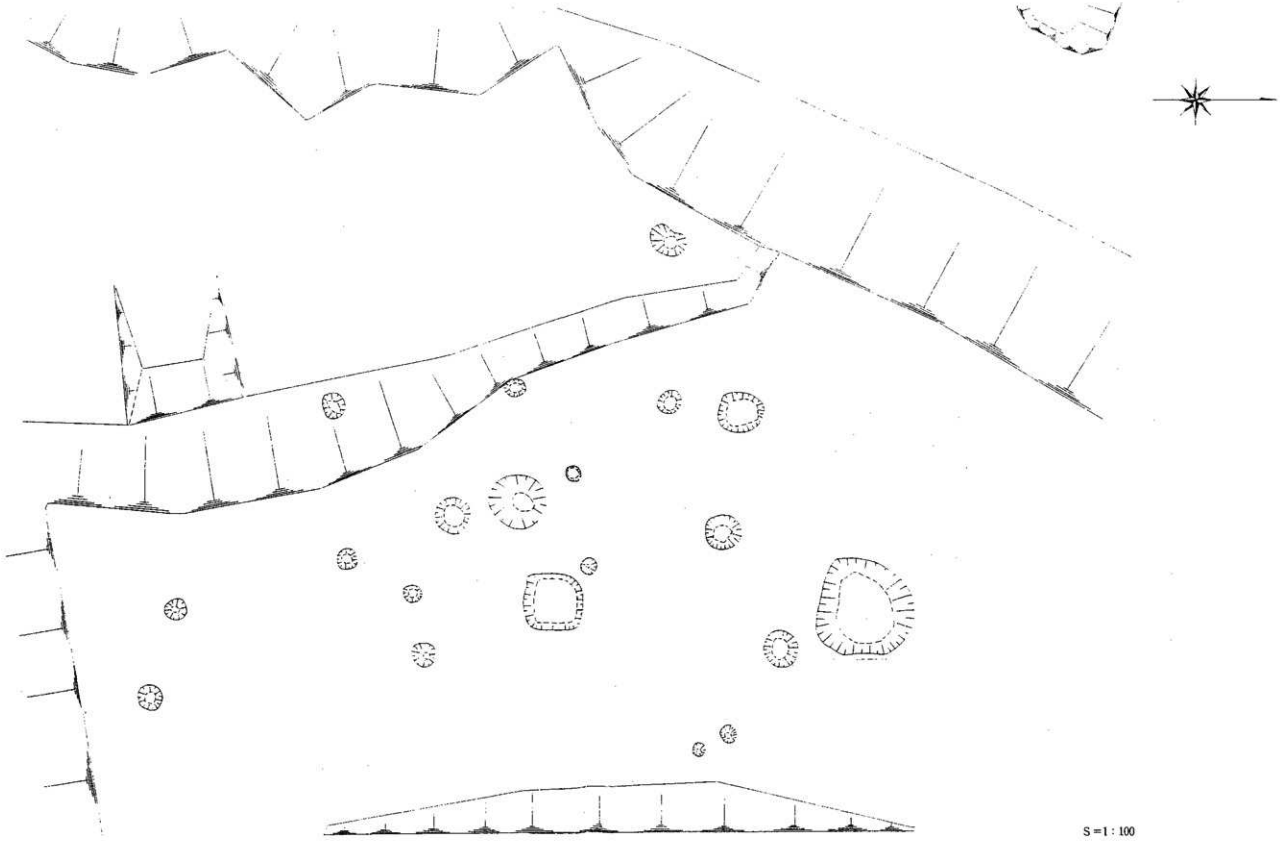


S＝1：500

挿図３　丸山城跡遺構図



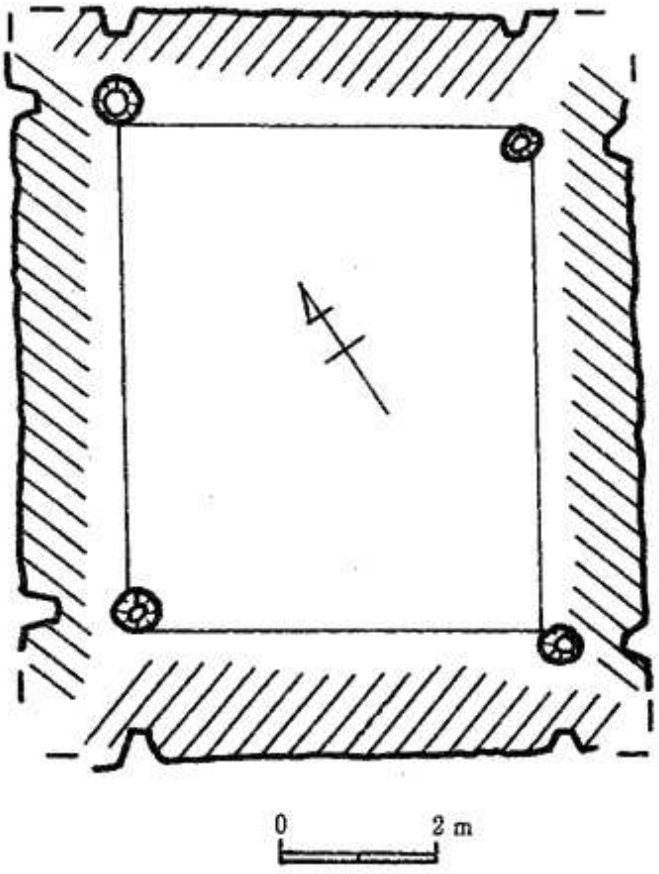
S＝1：300



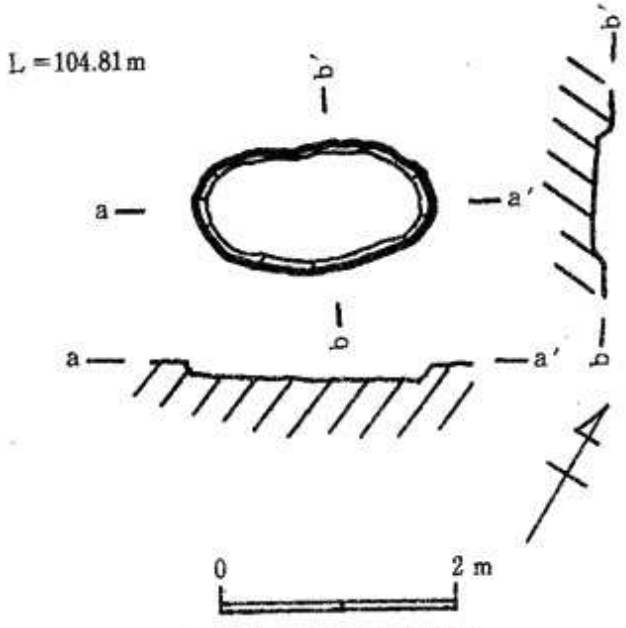
S＝1：100

S＝1：250

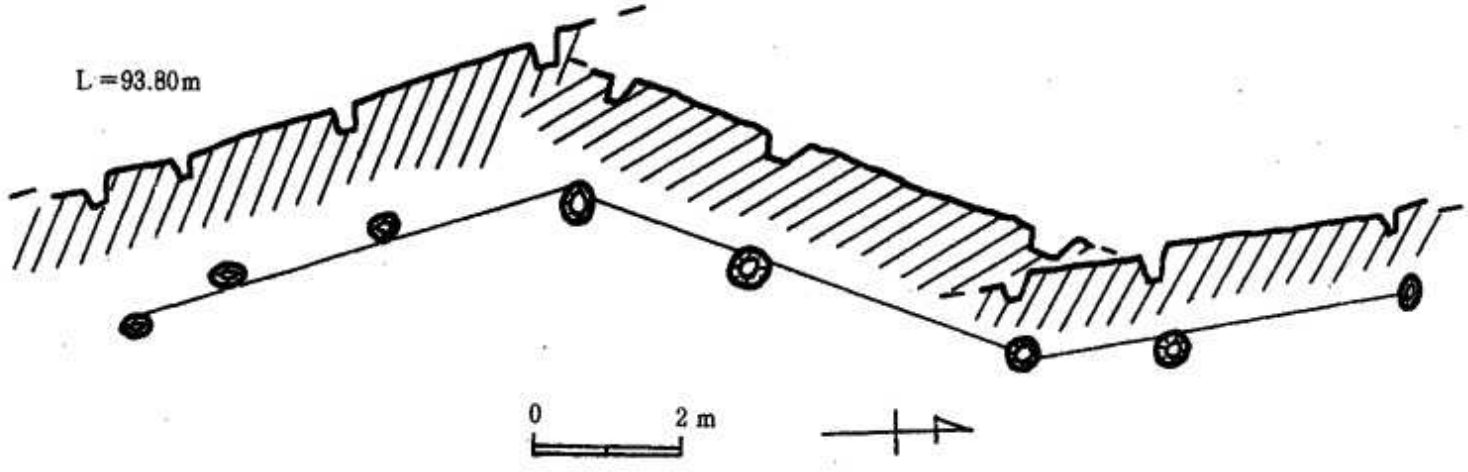
L＝94.20m



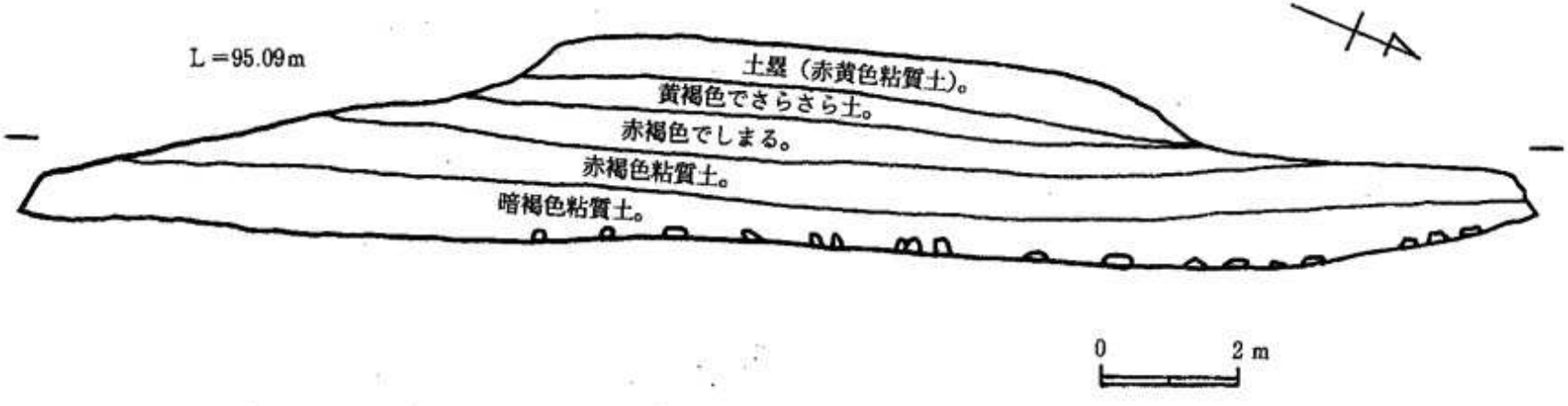
挿図4　ＳＢ１遺構図



挿図5　ＳＫ１遺構図



挿図6　SA1遺構図



挿図7　水堀（溝）1・土塁1断面図

第５郭

第１帯郭の北側に50.0m程降った平坦面に位置している出郭で、見張り場的な機能を果たしていたと思われる。ピット等は検出されなかった。

第６郭

第２帯郭から7.0m程降った南西側の平坦部に位置している。遺構は堀切（濠）、土塁、柵列、堀立柱建物など種々検出されており、当山城の最大の防御施設であると考えられる。

第７郭

第６郭から2.0m程降った南西側の平坦部に位置している。ピット等は検出されなかった。

第８郭

第７郭から3.0m程降った南東側の平坦部に位置している。ピット等は検出されなかった。

第１帯郭

第２郭から3.0m程降った平坦面で、西側から北側にかけて取り囲むような形態（帯状）をとっている。ピット等は検出されなかった。

第２帯郭

第２郭から3.5m程降った平坦面で、西側から南側にかけて取り囲むような形態（帯状）をとっている。ピット等は検出されなかった。

４．柵　　列（ＳＡ）

第６郭の西端側で１基検出し、主軸はほぼ磁北方向をとる。

ＳＡ１［挿図６、図版Ⅴ］

第６郭の西側斜面端部から郭の肩部に平行するような形に位置している。ＳＢ１の西側に７間分検出され、主軸をＮ－８°－Ｗにとる。柱穴はほぼ円形を呈し、径0.29～0.57m、深さ0.12～0.56mを測る。柱間・柱筋ともに不揃いであるが、両端のピットをつなぐと主軸はほぼ磁北方向をとる。

５．堀　　切

全体で空堀（竪堀）１条と水堀（濠）を１条検出した。防御施設の遺構である。

空堀（竪堀）１［図版Ⅳ］

当遺跡の南東側斜面で１条検出した。「Ｕ」字状の空堀で南側からの進入を遮断する防御施設である。

水堀（濠）１［挿図７、図版Ⅴ］

第６郭の北西側に位置し、規模は最大幅2.93m、最長21.60m、最深部1.12mを測

る。特に、南西側通路部分の進入を遮断する形態をとっている。また、南側断面の底には、ほぼ均等なスパンで石が列状に数多くならんでいたことが注目されるが、目的、意味等は不明である。

6．土　　塁

全体で1条、第6郭で検出した。

土塁1［挿図7、図版V］

第6郭の北西側に位置し、水堀の南東壁と平行する形で検出した。規模は、最大高0.98m、最大幅0.65m、最長10.44mを測り、防御的役割を果たすものであろう。

V　ま　と　め

今回の調査では、郭と思われる削平地や平坦面、また、帯部、堀切（竪堀、濠）、土塁など中世山城の特徴である遺構を確認することができた。ただし、遺物についてはまったく出土しなかったためにはっきりと時代を決定づける資料がなかったことが残念に思われる。

本遺跡の縄張りをみると、四方八方を見渡せる山上を利用して郭を連ねた連郭とともに、南東側の偏狭な通路部分を堀切（濠）で防御している形態は正に中世の砦跡であり、陣城（要害）としての様相が窺える。

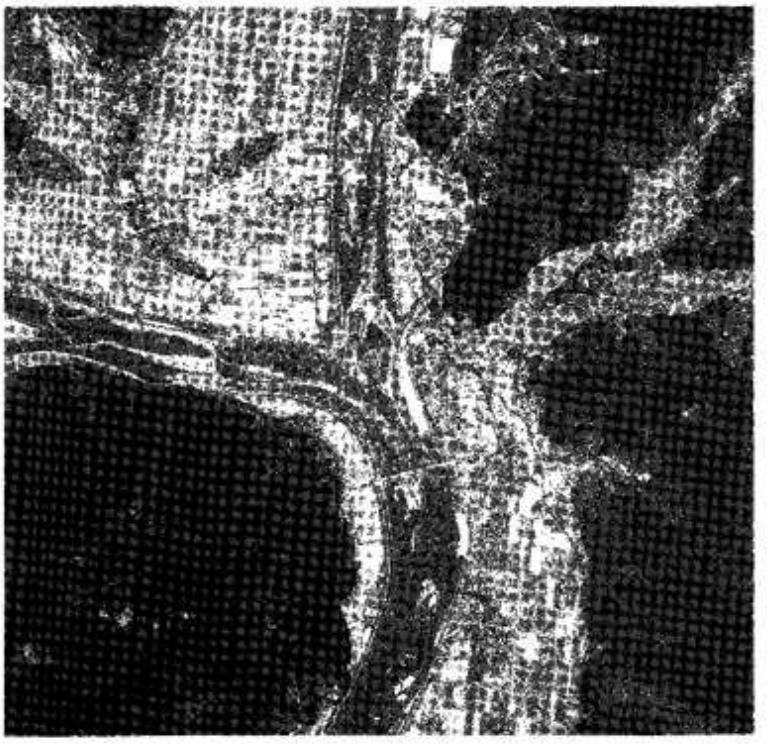
以上のことから、発掘調査や文献等により総合的に考えてみると、砦そのものが居住機能（館）を果たしていたのではなく、軍事的機能を備えた山城であったことには違いなく、後に軍事、政治、経済の拠点となる城下町と一体化した近世城郭が形成される以前の基本的様式をもった山城であったことが想定される。

図　　版

（Ⅰ～Ⅴ）

図版 I

丸山城跡全景（北東から）

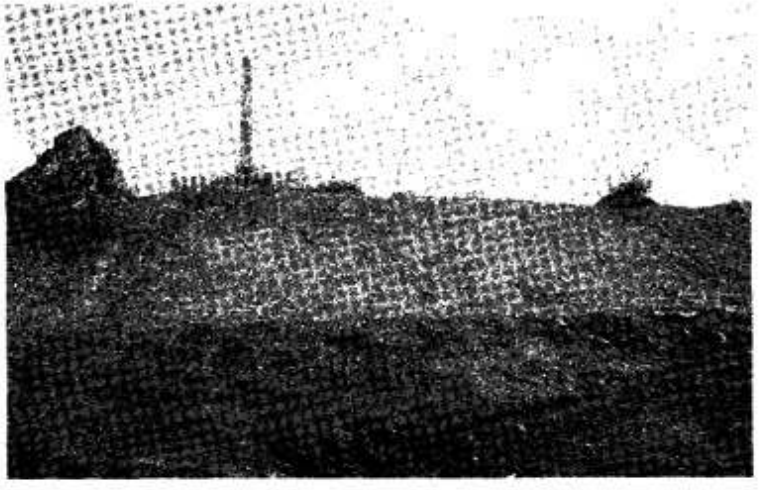


丸山城跡全景航空写真（真上から）

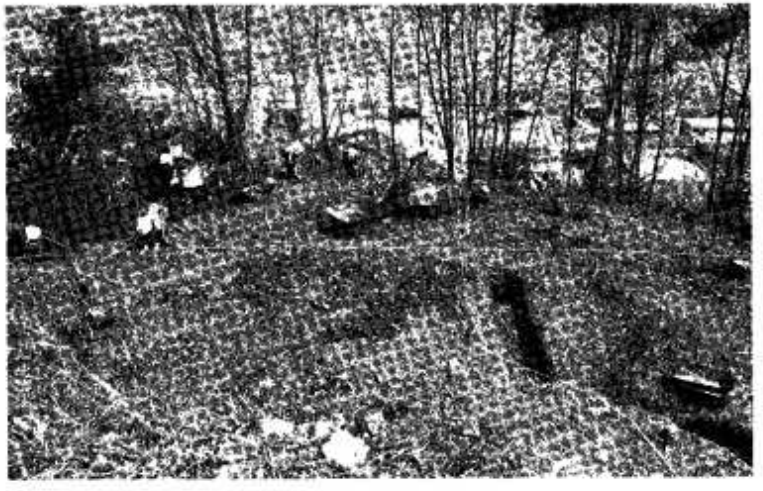
図版Ⅱ

丸山城跡周辺風景（頂部から北東側）

丸山城跡周辺風景（頂部から南東側）



第１郭（ 南から忠魂碑を望む）

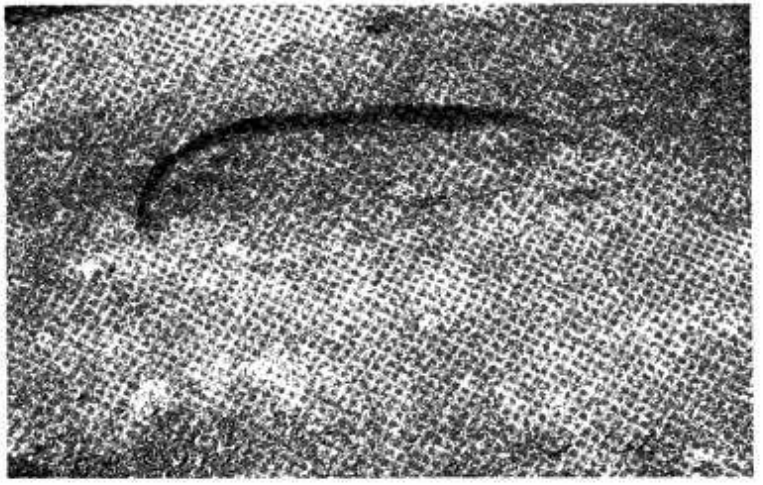


発掘調査作業風景（第３郭北西から）

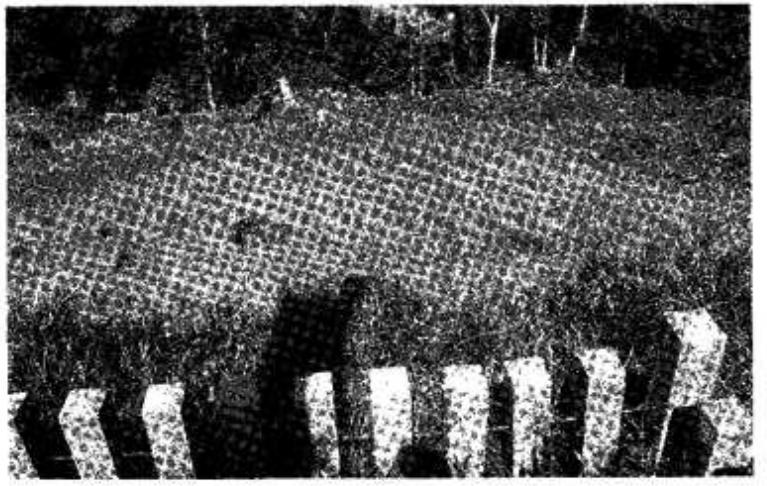
第２郭（北から）

第３郭（北西から）

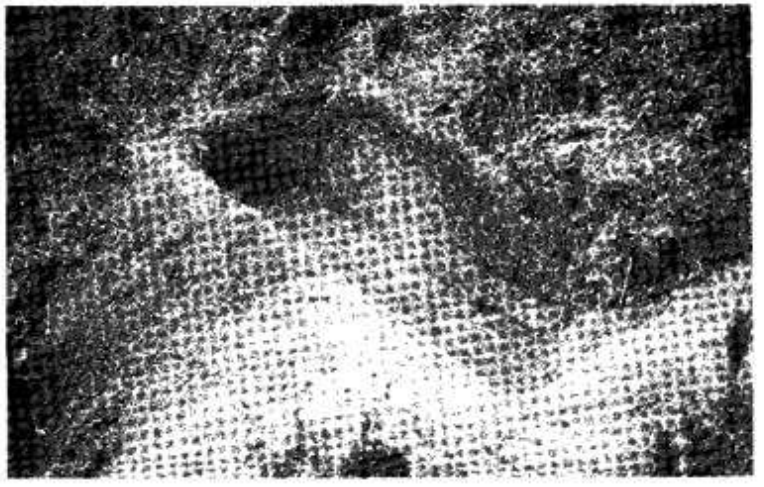
図版三



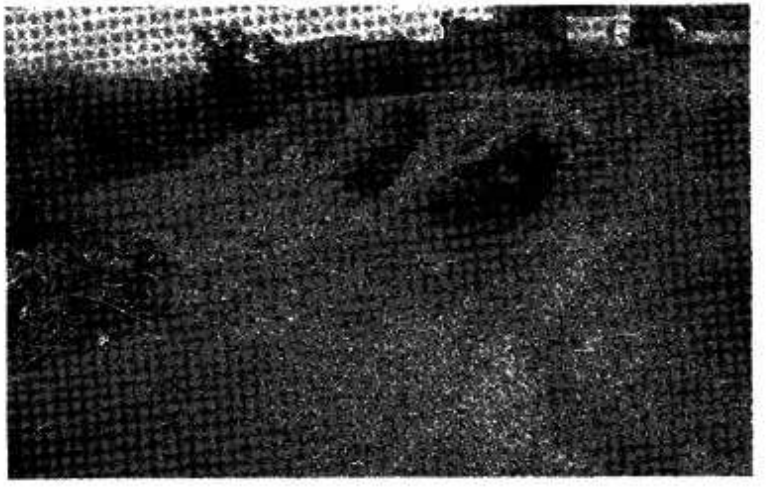
ＳＫ１全景（東から）



第４郭（ピット東から）

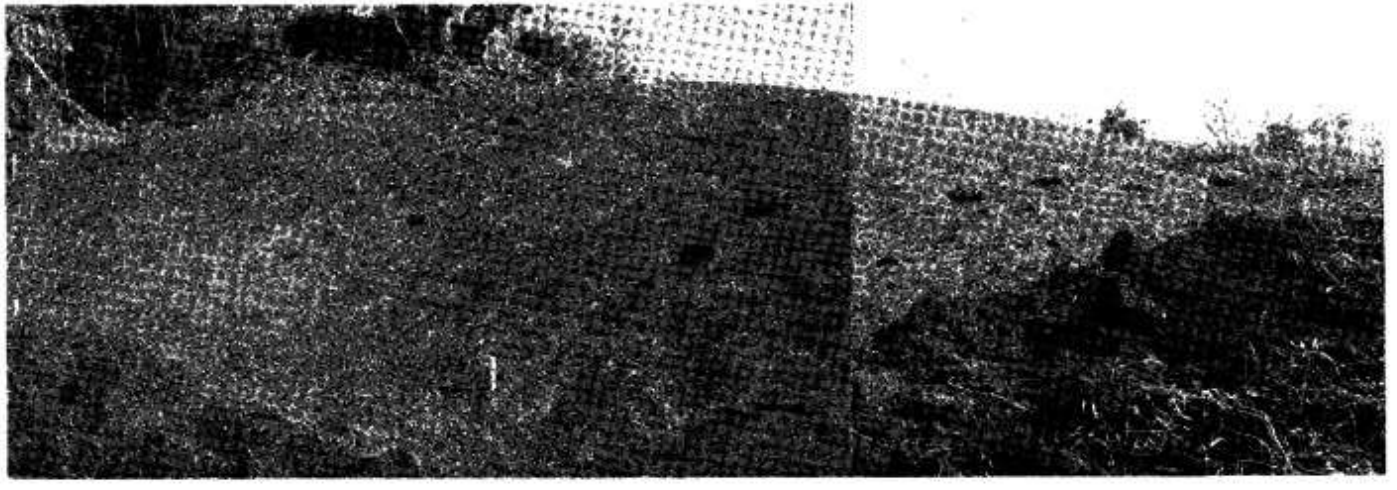


堀切全景（堅堀　東から）

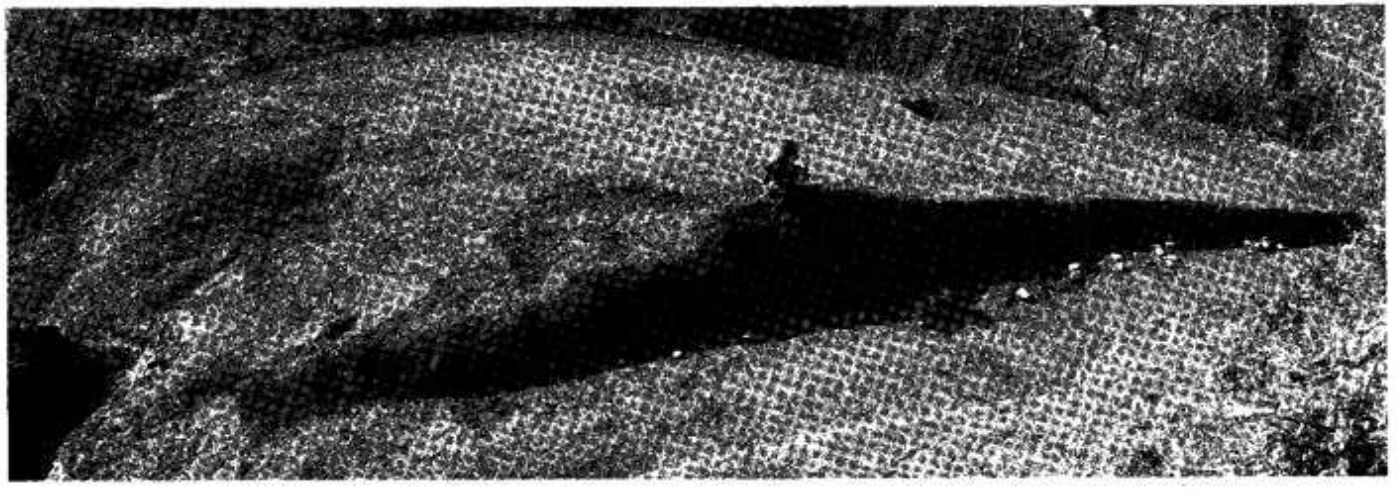


防空壕跡（東から）

図版 IV



ＳＢ１・ＳＫ１全景（北西から）



水堀（濠）・土塁全景（北東から）

図版７

丸山城跡発掘調査報告書

発行日　１９９３年３月

発行者　河原町教育委員会
〒680－12
鳥取県八頭郡河原町大字渡一木277－1
ＴＥＬ（0858）85－0011

印　刷　谷　岡　印　刷
〒680　鳥取市元町126
ＴＥＬ（0857）26－2001